

安全データシート

1. 製品及び会社情報

製品名 : クロモアガーリステリア 基礎培地

<製造元>

会社名 : CHROMagar

住 所 : 4, Place du 18 Juin 1940 75006 Paris France

電話番号 : +33 1 45 48 05 05

<販売元>

会社名 : 関東化学株式会社

住 所 : 〒103-0022 東京都中央区日本橋室町2-2-1

担当部門 : 試薬事業本部 技術部 マイクロバイオ課

電話番号 : (03)6214-1090

F A X 番号 : (03)3241-1047

メールアドレス : medium-info@gms.kanto.co.jp

製品コード : LM852(B)

整理番号 : 72037

SDS適用製品番号 : 08403、49958-19

2. 危険有害性の要約

G H S 分類

物理化学的危険性

自然発火性固体 : 区分外

健康に対する有害性

皮膚腐食性・刺激性 : 区分2

眼に対する重篤な損傷・眼刺激性 : 区分2 A

生殖毒性 : 区分2

特定標的臓器/全身毒性 (単回暴露) : 区分2

特定標的臓器/全身毒性 (反復暴露) : 区分2

環境に対する有害性

水生毒性 (急性) : 区分3

水生毒性 (慢性) : 区分3

絵表示またはシンボル



注意喚起語 : 警告

危険有害性情報 : 皮膚刺激
強い眼刺激
生殖能または胎児への悪影響のおそれの疑い

神経系の障害のおそれ
 長期または反復暴露による神経系、腎臓の障害のおそれ
 水生生物に有害
 長期的影響により水生生物に有害

注意書き

安全対策

: 取扱い注意事項をよく読み、理解してから取り扱う。
 粉じん、ミスト、蒸気などを吸入しない。
 環境への放出を避ける。
 この製品を使用する時に、飲食または喫煙をしない。
 適切な保護手袋、保護眼鏡、保護衣、保護面、保護マスクなどを着用する。
 使用後は保護具をよく洗う。
 取扱い後はよく手を洗う。

救急処置

: 眼に入った場合：流水で数分間洗い流す。医師の処置を受ける。
 皮膚に付着した場合：汚染された衣類および付着物を取り除く。皮膚を流水で洗う。皮膚刺激が生じた場合は、医師の処置を受ける。
 取り扱った後、手を洗う。
 暴露した場合：医師の処置を受ける。
 気分が悪いときは、医師の処置を受ける。

保管

: 施錠して保管する。

廃棄

: 内容物や容器は関係法令に基づき適正に処理する。

3. 組成及び成分情報

単一製品・混合物の区別

: 混合物

化学名又は一般名

: 下記の成分を含有する培地

成分及び含有量

: カンテン 29.1%
 ペプトン/イーストエキス 44.7% (塩化リチウム10-25%)
 塩化ナトリウム 9.7%
 発色基質 16.5%

化学特性 (示性式)

: カンテン -
 ペプトン/イーストエキス - (塩化リチウム LiCl)
 塩化ナトリウム NaCl
 発色基質 -

官報公示整理番号

化審法

: カンテン -
 ペプトン/イーストエキス - (塩化リチウム 1-231)
 塩化ナトリウム 1-236
 発色基質 -

安衛法

: カンテン -
 ペプトン/イーストエキス - (塩化リチウム 公表)
 塩化ナトリウム 公表
 発色基質 -

CAS No.

: カンテン 9002-18-0
 ペプトン/イーストエキス - (塩化リチウム 7447-41-8)

塩化ナトリウム 7647-14-5

発色基質 -

危険有害成分 : 塩化リチウム

4. 応急措置

吸入した場合 : 直ちに新鮮な空気のある場所に移し、鼻をかませ、うがいをさせる。

皮膚に付着した場合 : 直ちに付着部を多量の水で十分に洗い流す。

目に入った場合 : 直ちに流水で十分に洗い流す。

飲み込んだ場合 : 直ちに水を飲ませる。

5. 火災時の措置

消火剤 : 水、粉末・二酸化炭素、乾燥砂、泡

使ってはならない消火剤 : 特になし

特定の消火方法 : 速やかに容器を安全な場所に移す。移動不可能な場合は、容器および周囲に散水して冷却する。

消火を行う者の保護 : 消火作業の際は、必ず保護具を着用する。

6. 漏出時の措置

人体に対する注意事項、保護具及び緊急時措置

: 作業の際は適切な保護具を着用し、飛散したものが皮膚に付着したり、粉塵を吸入しないようにする。風上から作業し、風下の人を退避させる。

環境に対する注意事項 : 流出した製品が河川などに排出され、環境へ影響を起ささないように注意する。大量の水で希釈する場合は、汚染された排水が適切に処理されずに環境へ流出しないように注意する。

回収、中和 : 飛散したものは掃き集めて空容器に回収する。

7. 取扱い及び保管上の注意

取扱い

技術的対策 : 皮膚に付いたり、粉塵を吸入しないように必要に応じて適切な保護具を着用する。

注意事項 : みだりにエアロゾル、粉塵が発生しないように取扱う。

保管

適切な保管条件 : 容器は密栓して冷暗所に保管する。(2-30℃)

安全な容器包装材料 : ガラス、ポリエチレン、ポリプロピレンなど

8. 暴露防止及び保護措置

設備対策 : 粉塵が発生する場合は、局所排気装置を設置する。

管理濃度 : 設定されていない

許容濃度

日本産業衛生学会 (2016年度版)

: 設定されていない

ACGIH (2015年度版)

: 設定されていない

保護具

呼吸器用の保護具 : 必要に応じて防じんマスクを着用する

手の保護具 : 必要に応じて保護手袋を着用する。

眼の保護具 : 必要に応じて保護眼鏡を着用する。

皮膚及び身体の保護具 : 保護衣 (長袖作業衣)、保護長靴、保護服等

9. 物理的及び化学的性質

形状	: 粉末
色	: 淡茶色
臭い	: 特異臭
pH	: データなし
沸点	: データなし
融点	: データなし
引火点	: データなし
発火点	: データなし
爆発特性	
爆発限界	: データなし
蒸気圧	: データなし
密度	: 0.5g/cm ³ (20°C)
溶解性	
溶媒に対する溶解性	: 水 ; 熱水に可溶
オクタノール／水分配係数(log Pow)	: データなし

10. 安定性及び反応性

安定性	: 通常条件で安定である。
反応性	: 酸化剤と接触すると反応することがある。
避けるべき条件	: 日光、熱、水分 日光、熱
混触危険物質	: 酸化剤
危険有害な分解生成物	: 一酸化炭素、窒素酸化物

11. 有害性情報

急性毒性	: 経口：データ不足のため分類できない 経皮：データ不足のため分類できない 吸入（蒸気）：データ不足のため分類できない 吸入（粉塵・ミスト）：データ不足のため分類できない
皮膚腐食性・刺激性	: 皮膚に対して刺激性がある(区分2) 塩化リチウムは、ウサギを用いた試験で3匹中1匹に14日間の観察期間中で回復しない痂皮形成が認められ、刺激性ありとの結果に基づき、区分2とした。
眼に対する重篤な損傷・刺激性	: 眼に対して強い刺激性がある(区分2A) 塩化リチウムは、ウサギを用いた試験で適用1時間後に刺激性が最も強く、洗浄グループでは7日後迄に、非洗浄グループでは16日後迄に回復し、中等度の刺激性との結果に基づき、区分2Aとした。
呼吸器感作性又は皮膚感作性	: 呼吸器感作性：データ不足のため分類できない 皮膚感作性：データ不足のため分類できない
生殖細胞変異原性	: データ不足のため分類できない
発がん性	: データ不足のため分類できない

生殖毒性 : 生殖能または胎児への悪影響のおそれの疑い(区分2)
 塩化リチウムを雌ラットに交配前から妊娠期間を通じて飲水投与した試験で、出生仔に奇形は観察されなかったが、対照群と比較し母動物で黄体数の低下が見られたこと、また、マウスに交配前から妊娠期間および授乳期間を通じ飲水投与により高用量では親動物が死亡したが、親動物の死亡および成長に悪影響もなかった低用量では出生仔および同腹仔全体で死亡率の増加が見られたこと、さらに、ICR系マウスの器官形成期に経口投与により8.6%の胎仔に奇形が観察されたことが報告されている。以上の結果に基づき、生殖への影響が見られたが、同じ用量で親動物の一般毒性に関する記述がないことから区分2とした。

特定標的臓器・全身毒性－単回暴露

: 神経系の障害のおそれ (区分2)

塩化リチウムは、マウスの急性経口投与試験においてLD50値は1165 mg/kgで毒性症状として後肢麻痺や死亡を伴う昏迷、筋脱力、筋痙縮が記載され、また、別の試験(用量: 1500~3000 mg/kg)では毒性症状として嗜眠、呼吸緩徐、外部刺激に対する反応の遅れ、死亡前の痙攣などが記載されている。上記のマウスの所見はガイダンス値区分2の用量範囲で認められているので区分2(神経系)とした。

特定標的臓器・全身毒性－反復暴露

: 長期または反復暴露による神経系、腎臓の障害のおそれ (区分2)

塩化リチウムは、ラットに2年まで飲水した反復投与試験において106 mg/kg/dayで投与後3-5日に傾眠と嗜眠、次いで筋振戦、衰弱が見られ、2-3週間以内に死亡し。また、イヌの150日までの反復経口投与試験において、100 mg/kg/dayで死亡が発生し、死亡前の症状として振戦、嗜眠、流涎、筋脱力、極度の衰弱などが観察された。一方、イヌを用いた57週までの反復経口投与試験(20, 50, 100 mg/kg)において、組織学的に遠位曲尿細管と集合管の障害を含む腎臓障害が観察された。以上の所見はガイダンス値区分2の用量範囲に相当することから区分2(神経系、腎臓)とした。

吸引性呼吸器有害性

: データ不足のため分類できない

12. 環境影響情報

生態毒性

魚毒性

: 水生毒性(急性) 水生生物に有害(区分3)
 水生毒性(慢性) 長期的影響により水生生物に有害(区分3)
 (塩化リチウムとして)

魚類(コイ科) LC50=17mg/L/96H

残留性/分解性

: データなし

生体蓄積性

: データなし

土壤中の移動性

: データなし

13. 廃棄上の注意

残余廃棄物

: スクラバーを具備した焼却炉で焼却処理を行う。または、都道府県知事の許可を得た廃棄物処理業者に委託処理をする。

容器

: 空容器を廃棄する場合は、内容物を完全に除去した後に処分する。

14. 輸送上の注意

国内規制

適用法令なし

国連分類

: 分類基準に該当しない

輸送の特定の安全対策及び条件

: 輸送に際しては直射日光を避け、容器の漏れのないことを確かめ、落下、転倒、損傷がないように積み込み荷くずれの防止を確実にを行う。

15. 適用法令

化学物質管理促進法 : 非該当
毒物及び劇物取締法 : 非該当
労働安全衛生法 : 非該当

16. その他の情報

引用文献 化学大辞典 共立出版社 (1963)
16817の化学商品、化学工業日報社 (2017)

*この安全データシートは、各種の文献などに基づいて作成していますが、必ずしもすべての情報を網羅しているものではありませんので、取り扱いには充分注意して下さい。なお、注意事項は通常の実用を前提としたものであり、特殊な取り扱いをする場合には、その用途・用法に適した安全対策を実施して下さい。また、含有量、物理／化学的性質、危険有害性などの記載内容は、情報提供であり、いかなる保証をなすものではありません。この安全データシート(SDS)は、JIS Z7253に基づいて作成しており、JIS Z7250:2010に基づいて作成した製品安全データシート(MSDS)と記載事項は同一です。